

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 永犬丸西 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

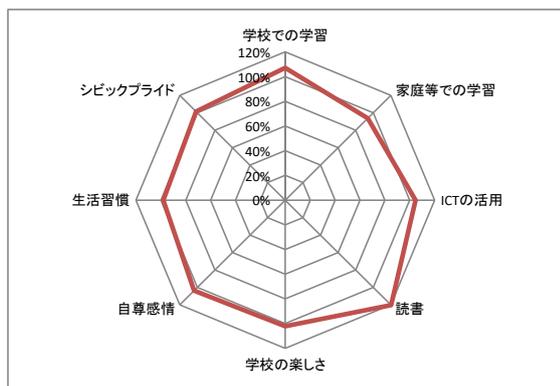
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	内容別に見ると、「知識及び技能」において成果が表れており、その中でも「言葉の特徴や使い方に関する事項」が優れている。他方で、「思考力、判断力、表現力等」における「書くこと」に関する力を高めることが課題である。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	目的や内容に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる問題	
	努力が必要な問題	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	領域別に見ると、「変化と関係」において成果が表れている。また、「図形」や「データの活用」においては、全国平均と比べて若干下回っている。他方で、「数と計算」は全国平均を下回っており、課題が見られる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、数値を求める問題	
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取る問題 ・たし算とかけ算の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりする問題 	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「自分には、よいところがあると思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」と9割以上の児童が回答しており、自尊感情の高まりが見られる。今後も学校生活において自尊感情を高める活動を継続していきたい。 ・自分の考えを発表するときに、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表しようとしたり、友達との話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり広げたりしようとしたりする等、積極的に学習活動に参加しようとしている傾向が見られる。 ・読書好きの児童の割合が高く、日頃の読書活動の継続の成果であると考えられる。 ・学習内容について分かったこと、分からなかったことを見直し次の学習に生かそうとする意識を高めることに課題が見られる。 ・学校が休みの日における家庭学習の時間が短い傾向が見られた。家庭学習の意義の啓発や、家庭学習の選択肢を広げる取り組みが必要である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・目的や相手意識を明確にして文章を書く学習活動を継続する。
- ・付箋を様々教科等の学習で思考ツールとして利用し、情報を整理したり、自分の思考をまとめたりする活動を広げる。
- ・ドリルアプリ等を活用し、思考力・判断力・表現力を高める下支えとなる基礎的な学力の定着の機会を増やす。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習習慣化のため、「家庭学習の手引き」のさらなる啓発を図る。特に、土日祝日の家庭学習のあり方を見直し、持続可能な取り組みができるようにする。
- ・ICT機器の使い方のきまりは、学校における健康教育や道徳科、学級活動等で継続的に指導する。また、保護者等へは、学校ホームページやtutoruで配信する永犬丸西小学校通信(電子版)、家庭教育学級等で啓発する。